

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4571800301		
法人名	医療法人興生会		
事業所名	押川病院グループホーム和		
所在地	宮崎県西諸県郡野尻町大字東麓1132番地9 (電話) 0984-21-6266		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年3月12日	評価確定日	平成22年4月23日

【情報提供票より】(平成22年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年1月7日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人,	常勤換算7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(平成22年1月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	1	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 86.4 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	押川病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム和の玄関前の手入れされた花壇には、季節の色々な花が植えられ心を和ませてくれる。職員と利用者は、平成16年の開設当初より散歩道のゴミ拾いを当たり前のこととして、車いす利用の方も火バサミでゴミ拾いをされる等、現在も継続している。地域住民との交流は、散歩や買い物時のあいさつはもちろん、花壇に咲く花を話題にしたり、町の小学校にベルマークを届けに行き子供たちと触れ合ったり、さまざまな実践を通して地域に少しずつ根ざしている。時には退居された家族から農作物の差し入れがあったり、利用者と職員手作りの芋こんにやくを近隣に届けて喜ばれるなど、まさにホームと地域の人々が支え合う双方向関係が築かれているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題について、ミーティングで話し合い、改善計画シートを作成し前向きに取り組み、改善がなされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価の意義とねらいについて理解しており、全員で自己評価に取り組みサービスの質の向上に努めている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、事業所からの報告に対する内容についての説明要求や外部評価の結果について参加メンバーから意見をもらい、改善に生かしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時や家族会では常に問いかけ、何でも言ってもらえるよう雰囲気作りに留意している。出された意見や要望は検討し、質の向上に生かしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ボランティアの受け入れや小学生、保育園児との触れ合いがある。散歩や買い物時には地域の人々とあいさつや会話を交わしている。散歩道のゴミ拾い、清掃活動、敬老会、花火大会等町の行事には積極的に参加している。防災訓練には消防署、近隣の人々の協力が得られ、参加してもらっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム和が目指すサービスのあり方について、職員全員で利用者に対する思いを出し合い、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、利用者に向き合う日々の実践の中で理念を意識して取り組んでおり、月1回開催しているミーティングで確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物時には地域の人々とあいさつ、会話を交わしている。町の小学校にベルマークを届けに行ったり、保育園児との触れ合いがある。散歩道のゴミ拾い、清掃活動、敬老会や花火大会など町の行事には積極的に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の意義とねらいについて理解しており、全員で自己評価に取り組みサービスの質の向上に努めている。前回の外部評価の結果はミーティングで話し合い、改善計画シートを作成し、改善に前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、家族や民生委員、知見者、行政職員、地域包括支援センター職員など幅広い立場の人に参加してもらっている。事業所からの報告や外部評価の結果に対して参加者に意見をもらい、そこでの意見をサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者とは気軽に相談できる関係づくりができています。防災無線の取り付けや、町の広報誌が定期的に届けられ、利用者の楽しみになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的にホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりを写真入りで報告している。利用者の健康状態は家族の来訪時や電話、手紙などで報告している。金銭管理については定期的、あるいは随時に出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会では常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望等は検討し、質の向上を目指す取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者は職員と利用者とのなじみの関係を大切にしている。職員の急病や急な休みの時に応援してくれる人を確保しており、職員の勤務体制や臨機応変な対応ができるよう異動や離職を最小限に抑えるための体制がとれている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は法人内外での研修を受ける機会が確保されている。研修内容はミーティングで発表し全職員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西ブロック、町内グループホーム連絡会に加盟し、管理者・職員が地域の同業者と交流、学習する機会を持ち、事業者同士協働しながら質向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどは母体医療機関の退院者である。利用開始前に職員が会いに行ったり、ホームの見学や遊びに来てもらうなど、本人が徐々になじみながら利用を開始できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野である野菜作りや漬物、昔の料理、縫い物等、人生の先輩である利用者にも教えてもらう場面が多く、職員と利用者はお互いに「ありがとう」の声かけをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日々のかかわりの中で、行動や表情から一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者主体の暮らしを反映した介護計画となるよう、家族の意見や職員全員の意見を出し合い介護計画に生かしている。介護計画は家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価すると共に、3か月に1回の定期的見直しを行い、利用者の状態に変化が見られた時は、随時に見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診時、自宅への外泊、墓参りの付き添いなど本人、家族の状況に応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどは母体医療機関からの退院者であるが、歯科や他科受診は本人、家族の希望する医療機関での受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応指針を定め、家族、医師、看護師を交えて話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような職員の言動は見られず、記録類もしっかり保管されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など、利用者一人ひとりの体調や気分配慮しながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立、食材の準備、調理、盛りつけ、片づけ等、食事の一連の作業を無理強いすることなく、利用者個々の力を生かしながら職員と一緒にやっている。利用者はなじみのはし、湯飲み、茶碗を用い、同じテーブルで職員と楽しく会話しながら食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望に合わせて、入浴や清拭など柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の手入れや食事作り、漬物、山菜採り、縫い物等、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。家族への電話や自宅へのふる里訪問、墓参り、遠出など利用者が行ってみたい場所への外出支援も柔軟に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や体調に合わせて、散歩や買い物など、戸外に積極的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員が認識しており、日中は施錠しない生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策についてはミーティング時に話し合いを行っている。火災訓練には消防署や近隣の人々の協力を得て参加してもらっている。利用者一人ひとりの非常用備品袋を準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリーについては母体医療機関の栄養士に相談している。職員は、利用者一人ひとりの一日の食事・水分摂取量を大まかに把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間（兼食堂）、トイレ等、共用の場は明るく異臭も無い。利用者同士お手玉をし、談話しながらゆったりと過ごしている。注意の必要な物品の保管もされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や大正琴、裁縫用具、時計、家族の写真などが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。